

# コア歯学教育演習基礎

責任者・コーディネーター	生化学講座(細胞情報科学分野) 石崎 明 教授 歯科保存学講座(歯周療法学分野) 八重柏 隆 教授		
担当講座(分野)	歯学部基礎講座(全分野)、歯科放射線学分野、予防歯科学分野		
対象学年	3	区分・時間数	講義/演習
期間	通期		前期 15.0時間 後期 58.5時間

## 学修方針（講義概要等）

3年次前期までに履修する歯科医学（解剖・組織・生理・生化・病理・薬理・微生物・理工・公衆衛生・社会と歯学・歯放）の重要点の理解度を深めるため、3クール制の集中講義やICTを活用した繰り返し演習を実施する。本科目の修得により、4年次に履修するコア歯学教育演習（1）を受講するための基礎学力を養い、臨床参加型実習を履修するために必要且つ十分な基礎歯科学的知識基盤の確立を目指す。

## 教育成果（アウトカム）

3年次前期までに履修する歯科医学（解剖・組織・生理・生化・病理・薬理・微生物・理工・公衆衛生・社会と歯学・歯放）についてICTを活用した演習試験をCBTと近い環境で体験することにより、歯科医学専門科目を復習し、歯科医学のコアで修得すべき内容が実際に身についていることを3年次の段階で早期に再確認できる。また5年次臨床実習を行うに足る十分な基礎歯科医学領域の知識を確実に身につけることができる。

（関連するディプロマポリシー：4）

## 事前事後学修の具体的内容及び時間

事前学修（予習）は、シラバスに記載されている各回の演習・試験内容に関し教科書を用いて調べるものとし、各回最低30分以上を要する。適宜、各解説講義で事前学修内容の確認時間を設ける。

（事前学修：最低30分を要する 事後学修：最低60分を要する）

## 講義/演習日程表

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [コア・カリキュラム] 事前事後学修
演習	4/14 (金)	1 2		DESS基礎演習A： 解剖・組織・生理・生化 (2年履修済み教科)	過去の国試問題で履修済み知識水準 (正答率8割以上)を確認する。事 前に「お試し演習」で予習してから 試験に臨む。事後に必ず復習する。
演習	6/26 (月)	3 4		3限) DESS必修試験： (全員) (2年履修済み教科)  4限) 演習A再試験： (該当者)	過去の国試問題で履修済み知識水準 (正答率8割以上)を確認する。事 前に「お試し演習」で予習してから 試験に臨む。事後に必ず復習する。
演習	8/30 (水)	1 2 3 4		DESS基礎演習B： 病理・薬理・微生物・理 工・衛生・放射	過去の国試問題で履修済み知識水準 (正答率8割以上)を確認する。事 前に「お試し演習」で予習してから 試験に臨む。事後に必ず復習する。
演習	10/24 (火)	1 2 3 4		DESS必修試験： 病理・薬理・微生物・理 工・衛生・放射・他	過去の国試問題で履修済み知識水準 (正答率8割以上)を確認する。事 前に「お試し演習」で予習してから 試験に臨む。事後に必ず復習する。

## 講義/演習日程表

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [コア・カリキュラム] 事前事後学修
	4/4 (火)	1 2		<b>到達度確認試験①</b>	
講義	4/5 (水)	1 の 1	武本真治教授 (医療工学講座)	<b>2年次歯科理工学の総復習</b>  2年次に学習した内容を到達度確認試験を通して、復習する。	1. 材料の機械的、物理的、化学的特徴および生物学的安全性を説明できる。 2. 鑄造の手順を説明できる。 3. 鑄造で用いる材料の特徴を説明できる。 [D-1-①②、D-2-②]
講義	4/5 (水)	1 の 2	石河太知教授 (微生物学講座・分子微生物学分野)	<b>2年次微生物学・免疫学の総復習</b>  2年次に学習した内容を到達度確認試験を通して、復習する。	1. 細菌・真菌・ウイルスの特徴を説明できる。 2. 病原微生物の性状を説明できる。 3. 全身の免疫機構を説明できる。 [C-4-1、C-4-2]
講義	4/5 (水)	1 の 3	入江太郎教授 (病理学講座・病態解析学分野)	<b>2年次病理学の総復習</b>  2年次に学習した内容を到達度確認試験を通して、復習する。	1. 病理学総論で学んだ重要事項について説明できる。 [C-4、5]
講義	4/5 (火)	2 の 1	横田聖司助教 (生化学講座・細胞情報科学分野)	<b>1年次後期～2年次生化学の総復習</b>  基礎領域の理解不足項目について補習し、到達度を確認・認識する。	1. 試験結果等を参考に基礎領域の理解不足項目を補習する。 [C-1-1), C-2-1), C-2-2), C-2-3), C-2-4)]
講義	4/5 (水)	2 の 2	加藤哲也助教 (生理学講座・病態生理学分野)	<b>2年次生理学の総復習</b>  2年次に学習した内容を到達度確認試験を通して、復習する。	1. 循環器の役割について説明できる。 2. 神経系について概説できる。 3. 体液及び血液の組成・性質について説明できる。 [C-3-4)-(4) (5) (10)]
講義	4/5 (水)	3 の 1	藤原尚樹教授 (解剖学講座・機能形態学分野)	<b>肉眼解剖学・歯の解剖学の基本的内容の総復習</b>  2年次に学修した肉眼解剖学と歯の解剖学について到達度確認試験を通して、復習し弱点領域を確認する。	1. 肉眼解剖学領域に必要な基本的項目を列挙し、説明できる。 2. 歯の解剖学領域に必要な基本的項目を列挙し、説明できる。 [E-2-1)-①～⑥⑪, E-2-2)-①～④、⑥, E-3-1)-②]
講義	4/5 (水)	3 の 2	池崎晶二郎助教 (解剖学講座・発生生物・再生医学分野)	<b>2年次組織学の総復習</b>  2年次に学習した内容を到達度確認試験を通して、復習する。	1. 人体を構成する細胞の種類とその特徴を概説できる。 2. 人体を構成する組織の種類とその特徴を説明できる。 3. 顎・顔面領域の形成過程やそれらの組織像にみられるさまざまな構造について理解できる。 [C-3-2～4][C-4-2] [E-2-1～3][E-3-1]

講義	4/5 (水)	4 の 1	田村晴希講師 (薬理学講座・病態 制御学分野)	<b>2年次で学んだ薬理学総 論と各論の復習</b>  2年次で学修した内容を 到達度確認試験を通じて 総復習する	1. 薬物の作用の仕方が説明できる 2. 薬物動態について説明できる。 3. 薬物の扱いについて説明できる。 4. 薬物の副作用について説明でき る。 5. 自律神経系の仕組みと関連受容 体、薬物について説明できる。 [C-6-2)-①～⑤、C-6-3)-①②、C- 6-4)-①]
講義	4/5 (水)	4 の 2	岸 光男教授 (口腔医学講座・予 防歯科学分野)	<b>2年次衛生・公衆衛生学 の総復習</b>  2年次で学修した内容を 到達度確認試験を通じて 総復習する。	1. 疫学調査と適用の組合せを列挙 できる。 2. 基礎的な統計指標と解析法を説 明できる。 3. 代表的な人口統計指標を算出で きる。 4. 感染症と非感染症の予防の差違 を説明できる。 5. 環境の人体への影響を概説でき る。 [B-4-1)-①、B-4-2)-①～④、B-3- 1)-④、B-2-4)-①]

## 講義/演習日程表

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [コア・カリキュラム] 事前事後学修
講義	8/25 (金)	2	高橋徳明講師 (口腔顎顔面再建学 講座・歯科放射線学 分野)	<b>3年前期講義内容の復習</b>  3年前期試験の結果から 導き出される知識不足領 域および理解不足領域を 補完する。	1. 放射線の基礎を理解する。 2. エックス線の発生原理を理解する。 3. デジタルX線撮影の種類を理解する。 4. 口外法撮影の種類、特徴を理解する。 5. CT, MRI, US等の特殊検査を理解する。 [E-1-2)-①②③④⑤⑨]
講義	8/25 (金)	3	藤原尚樹教授 (解剖学講座・機能 形態学分野)	<b>1. 全身, 頭頸部の骨学</b> <b>2. 全身, 頭頸部の筋学</b>  頭頸部を構成する骨が持 つ孔裂, 窩と周辺構造の 関係を理解する。 頭頸部の筋の走行と支配 神経について三次元的に 理解する。	1. 頭蓋を構成する骨についてその周 囲との関連性と形態を説明できる。 2. 全身の主要な骨の構成と筋の走行 を説明できる。 4. 表情筋、咀嚼筋を含めた頸部の筋 の走行と機能、神経支配について説 明できる。 [E-2-1]-②)、[E-2-2]-③]
講義	8/25 (金)	4	大津圭史 准教授 (解剖学講座・発生 生物・再生医学分 野)	<b>組織学総論</b>  人体を構成するさまざま な細胞、組織の特徴につ いて理解できる。	1. 人体の構造の概略について説明 できる。 2. 人体を構成する組織の種類とそ の特徴を説明できる。 3. 人体の構造と細胞の関係につ いて概説できる。 [C-3-4)]
講義	8/28 (月)	1	加藤哲也助教 (生理学講座・病態 生理学分野)	<b>1. ホルモンについて</b> <b>2. ホルモンの分泌調整 機構</b>  ホルモンが生体に果たす 役割及び様々な調節機構 について理解を深める。	1. ホルモンの種類及び性質を説明 できる。 2. ホルモン分泌器官を説明でき る。 3. ホルモンの分泌調整を説明でき る。 [C-3-4)-(9)-①②]
講義	8/28 (月)	2	横田聖司助教 (生化学講座・細胞 情報科学分野)	<b>統合講義 I</b>  1. 生体を講師絵する物 質の化学的基礎 2. 生体を構成する基本 物質	1. 生命科学及び医療科学を学ぶ上 で必要な物質の化学的基礎を習得す る。 2. 基本的な生体物質の分子構造、 機能及び代謝について説明できる。 [C-1-1), C-2-1)] 事前学修：1年次後期～2年次生 化学講義で配布された資料について見 直しておくこと。 事後学修：講義プリントの復習を行 うこと。

講義	8/28 (月)	3	小笠原正人教授 (薬理学講座・病態制御学分野)	<b>1. 薬理学総論</b> <b>2. 自律神経薬</b> <b>3. 筋弛緩薬</b> <b>4. 消化器疾患治療薬</b>  薬理学総論、自律神経系、筋弛緩薬、消化器系疾患の治療薬を復習する。	1. 薬物の性質、動態について説明できる。 2. 自律神経系の構造と作用薬、拮抗薬を説明できる。 3. 筋弛緩薬の作用機序を説明できる。 4. 胃酸分泌機構、腸管運動に働く薬を説明できる。 [C-6-2)-①②、C-6-3)-①②, C-6-4)-①]
講義	8/28 (月)	4	三浦利貴助教 (微生物学講座・分子微生物学分野)	<b>1. 微生物学総論</b> <b>2. 細菌学各論</b>  微生物の性状と病原細菌による感染症およびその病原因子を理解する。	1. 微生物の構造・性状を説明できる。 2. 感染の概念と感染症を説明できる。 3. 病原細菌の性状を説明できる。 [C-4-1]
講義	8/29 (火)	1	佐藤泰生講師 (病理学講座・病態解析学分野)	<b>1. 病理総論前半</b>  病因論・代謝障害・循環障害について理解する。	1. 病理学序論、病因論について説明できる。 2. 細胞傷害の機序についてその概略を説明できる。 3. 代謝障害についてその概略を説明できる。 4. 循環障害についてその概略を説明できる。 [C-5-1)-②、C-5-2)-①～③、C-5-4)-①～⑥]
講義	8/29 (火)	2	佐々木かおり助教 (医療工学講座)	<b>1. 歯科精密鑄造に用いる材料</b> <b>2. 義歯床製作に用いる材料</b>  歯冠修復物、義歯床の製作過程とそれに用いる材料の特徴を復習する。	1. 歯科精密鑄造の過程を説明できる。 2. 歯科精密鑄造で用いる材料の具備すべき特徴を説明できる。 3. 義歯床の製作過程を説明できる。 4. 義歯床で用いる材料の具備すべき特徴を説明できる。 [D-1-①②、D-2-②③]
講義	8/29 (火)	3 4	岸 光男教授 (口腔医学講座・予防歯科学分野)	<b>1. 疾病・障害の概念</b> <b>2. 社会福祉制度</b> <b>3. 疫学総論</b>  疾病や障害の概念に対応する社会制度を理解する。 疫学研究方法への理解を深める。	1. 疾病の自然史と障害、予防の関係を説明できる。 2. 社会保険と社会福祉のちがいを説明できる。 3. 疫学研究法の分類と適用を列挙できる。 4. 代表的な疫学指標を算出できる。 [B-3-1)-①、B-2-2)-③⑤⑦、B-4-1)-①]
	9/22 (金)	1 2		<b>到達度確認試験②</b>	
講義	11/6 (月)	2	高橋徳明講師 (口腔顎顔面再建学講座・歯科放射線学分野)	<b>理解不足の領域を克服する。</b>  DESS基礎演習Bの結果をもとに集中的に理解が必要な範囲を取り上げる。	1. 放射線影響と組織感受性について理解し、説明できる。 2. 患者防護、医療従事者の防護について理解を深める。 [E-1-2)-③④⑤⑨]

講義	11/6 (月)	3	石河太知教授 (微生物学講座・分子微生物学分野)	<b>1. ウイルス学各論</b> <b>2. 免疫学</b> ウイルスによる感染症およびその病原因子を理解する。 生体防御の仕組みを理解する。	1. ウイルスの性状を説明できる。 2. 免疫応答に關与する器官と細胞を説明できる。 3. 微生物の認識機構と排除機構を説明できる。 4. 自然免疫と獲得免疫を説明できる。 [C-4-1、C-4-2]
講義	11/6 (月)	4	藤原尚樹教授 (解剖学講座・機能形態学分野)	<b>1. 頭頸部の脈管学のみとめ</b> <b>2. 歯の解剖学</b> 頭頸部の動脈・静脈に關する走行経路や分布範囲について理解する。 歯の形態に關する基本的知識を理解する。	1. 外頸動脈とその枝の走行と分布範囲について説明できる。 2. 心臓の構造と体循環に關わる血管の走行を説明できる。 3. 永久歯、乳歯の歯種ごとの基本形態を説明できる。 [E-2-1]-④, [E-3-1]-②]
講義	11/7 (火)	1	大津圭史 准教授 (解剖学講座・発生生物学・再生医学分野)	<b>発生学 (一般、顎顔面)</b> 人体の初期発生過程について理解する。 顎・顔面の形成について理解する。	1. 人体の初期発生過程を説明できる。 2. 顎顔面の発生過程を説明できる。 3. 歯、歯周組織の発生過程を説明できる。 [E-3-1]
講義	11/7 (火)	2	横田聖司助教 (生化学講座・細胞情報科学分野)	<b>統合講義 II</b> 1. 遺伝子と遺伝 2. 細胞の構造と機能	1. 遺伝子の構造と機能及び遺伝の基本的機序が説明できる。 2. 細胞の基本構造と機能及び増殖と分化機構を説明できる。 [C-2-2), C-2-3)] 事前学修：1年次後期～2年次生化学講義で配布された資料について見直しておくこと。 事後学修：講義プリントの復習を行うこと。
講義	11/7 (火)	3	田村晴希講師 (薬理学講座・病態制御学分野)	<b>1. 全身麻酔薬、局所麻酔薬</b> <b>2. 抗炎症薬、抗アレルギー薬、免疫抑制薬</b> <b>3. 感染症治療薬</b> <b>4. 抗腫瘍薬</b> 麻酔薬、抗炎症薬、抗アレルギー薬、免疫抑制薬、感染症治療薬、抗腫瘍薬を理解する。	1. 麻酔に使用する薬を説明できる。 2. 抗炎症薬、鎮痛剤、免疫抑制機構を説明できる。 3. 感染症治療薬を説明できる。 4. 抗腫瘍薬を説明できる。 [C-6-2)-②③④]
講義	11/7 (火)	4	加藤哲也助教 (生理学講座・病態生理学分野)	<b>1. 味覚とは</b> <b>2. 味覚の受容と伝導路</b> 味覚の受容器官について学び、伝導路の詳細を理解する。	1. 特殊感覚における味覚の役割を説明できる。 2. 味蕾について説明できる。 3. 味覚の伝導路について説明できる。 [C-3-4)-(6)-①]

講義	11/8 (水)	1	衣斐美歩講師 (病理学講座・病態解析学分野)	<b>1. 病理総論後半</b> 免疫異常・感染症・腫瘍・奇形について理解する。	1. 免疫異常についてその概略を説明できる。 2. 感染症についてその概略を説明できる。 3. 腫瘍についてその概略を説明できる。 4. 奇形についてその概略を説明できる。 [C-4-1)-①～③、C-4-2)-⑤⑥、C-5-1)-①②、C-5-6)-①～⑥]
講義	11/8 (水)	2	佐々木かおり助教 (医療工学講座)	<b>1. 歯科材料の機械的、物理的性質</b> <b>2. 成形修復材料</b> 歯科材料が具備すべき機械的、物理的性質を理解する。	1. 歯科材料の応力-ひずみ曲線を説明できる。 2. 歯科材料の熱的性質を説明できる。 3. コンポジットレジンの特徴を説明できる。 4. グラスアイオノマーセメントの特徴を説明できる。 [D-1-①②、D-2-②③]
講義	11/8 (水)	3 4	岸 光男教授 (口腔医学講座・予防歯科学分野)	<b>1. 統計分析法</b> <b>2. スクリーニング</b> <b>3. 人口統計</b> 統計分析法を学修することにより、スクリーニング、人口統計への理解が深まる。	1. 統計学的分析法を説明できる。 2. スクリーニング検査を説明できる。 3. 人口統計を説明できる。 [B-4-2)-①④、B-4-1)-②、B-4-2)-②③]
	11/30 (木)	1 2		<b>到達度確認試験③</b>	
講義	12/22 (金)	1 2		SGを通じたの弱点補強	
講義	1/29 (月)	2	高橋徳明講師 (口腔顎顔面再建学講座・歯科放射線学分野)	<b>全範囲で理解力向上を目指す。</b> DESS必修試験において正答率の低い問題やその領域を解説し、理解力の向上につなげる。 全体として触れていない内容を作らないようにする。	1. 放射線の特徴についてまとめることができる。 2. 放射線を用いた歯科検査についてまとめることができる。 3. 放射線防護についてまとめることができる。 [E-1-2)-①②③④⑤⑦⑧⑨]
講義	1/29 (月)	3	藤原尚樹教授 (解剖学講座・機能形態学分野)	<b>1. 消化器の構造</b> <b>2. 呼吸器の構造</b> 口腔を含めて消化器と呼吸器の構造と関連する機能について三次元的に理解する。	1. 口腔・咽頭領域の区分を説明できる。 2. 口腔～直腸までの臓器の配列と特徴を説明できる。 3. 鼻腔～咽頭、肺までの呼吸器の構造と機能との関連性を説明できる。 [E-2-2)-①～③]
講義	1/29 (月)	4	大津圭史准教授 (解剖学講座・発生生物・再生医学分野)	<b>口腔組織学</b> 歯、歯周組織、口腔粘膜、顎関節、唾液腺の組織構造と特徴を理解する。	1. 歯、歯周組織、口腔粘膜、顎関節、唾液腺の組織構造と特徴について説明できる。 [E-2-1～3][E-3-1]

講義	1/30 (火)	1	加藤哲也助教 (生理学講座・病態 生理学分野)	<b>1. 唾液の性質</b> <b>2. 唾液の分泌機構</b>  唾液の性質及び自律神経 支配による唾液分泌機構 の詳細について理解を深 める。	1. 唾液の性質を説明できる。 2. 唾液腺の支配神経について説明 できる。 3. 唾液の分泌機構を詳細に説明で きる。 [E-2-2)-⑤⑥]
講義	1/30 (火)	2	横田聖司助教 (生化学講座・細胞 情報科学分野)	<b>統合講義Ⅲ</b>  1. 細胞の情報伝達機構	1. 細胞間、細胞とマトリックスの接 着機序及び細胞レベルでの情報伝達 の仕組みを理解する。 [C-2-4)] 事前学修：1年次後期～2年次生化学 講義で配布された資料について見直 しておくこと。 事後学修：講義プリントの復習を行 うこと。
講義	1/30 (水)	3	小笠原正人教授 (薬理学講座・病態 制御学分野)	<b>1. 血栓症治療薬</b> <b>2. 硬組織とホルモン・ ビタミン</b> <b>3. 糖尿病と治療薬</b> <b>4. 中枢神経作用薬</b>  抗凝固薬と抗血小板薬、 骨粗鬆症治療薬、糖尿病 治療薬、中枢神経疾患と その治療薬を理解する。	1. 血栓形成のメカニズムと治療 薬、予防薬を説明できる。 2. 骨粗鬆症の概要と治療薬を説明 できる。 3. 糖尿病の概要と治療薬を説明で きる。 4. 中枢神経疾患の概要と治療薬を 説明できる。 [C-6-2)-②⑤、C-6-3)-②]
講義	1/30 (水)	4	石河太知教授 (微生物学講座・分 子微生物学分野)	<b>1. 口腔細菌</b>  口腔のフローラ、口腔細 菌の性状およびう蝕・歯 周疾患の成立・発症機序 を理解する。	1. 口腔の常在微生物叢を説明でき る。 2. 口腔微生物の性状を説明でき る。 3. う蝕と歯周病の成立機序を説明 できる。 [C-4-1、C-4-2]
講義	1/31 (水)	1	入江太郎教授 (病理学講座・病態 解析学分野)	<b>1. 病理総論の要点</b> <b>2. 口腔病理学の要点</b>  病理学総論・口腔病理学 の重要事項を整理し理解 する。	1. 病理学総論で学んだ重要事項に ついて説明できる。 2. 口腔病理学で学んだ重要事項に ついて説明できる。 [C-4, 5]
講義	1/31 (水)	2	武本真治教授 (医療工学講座)	<b>1. 接着システム</b> <b>2. 歯冠修復方法</b>  歯冠修復方法を理解す る。	1. コンポジットレジン修復の手順 を説明できる。 2. 歯冠修復物の口腔内での装着方 法を説明できる。 [D-1-①②、D-2-②④⑤]
講義	1/31 (水)	3 4	岸 光男教授 (口腔医学講座・予 防歯科学分野)	<b>1. 環境保健</b> <b>2. 健康と栄養</b> <b>3. 感染症の予防</b> <b>4. 地域保健総論・各論</b>  社会と歯学の学修後に公 衆衛生を学び直すこと で、知識相互の関連への 理解が深まる。	1. 主な環境指標を列挙できる。 2. 食事摂取基準と食事バランスガイ ドを説明できる。 3. 感染症の成立要因と要因ごとの予 防法を説明できる。 4. プライマリヘルスケアとヘルスプ ロモーションを説明できる。 5. 母子保健、学校保健、産業保健、 成人保健に係わる検診を列挙し、それ ぞれの特徴を説明できる。 [B-2-4-①②、B-1③、B-3-1)-④、B- 3-1)-③、A-7-1)-③、b-2-2)-①]
	2/6 (火)	3 4		<b>後期試験</b> <b>(総合試験)</b>	

## 教科書・参考書・推薦図書

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	歯科放射線学 第6版	岡野友宏ほか 編	医歯薬出版	2018年
参	解説と例題でわかる歯科放射線テキスト	勝又明敏 浅海淳一 田口明 森本泰宏ほか 編	永末書店	2021年
教	スタンダード歯科理工学：生体材料と歯科材料 7版	中嶋裕ほか 編	学建書院	2022年
教	新編歯科理工学 6版	服部雅之／武本真治編	学建書院	2021年
教	口腔解剖学 第2版	井出吉信ほか 編	医歯薬出版	2018年
教	図説 歯の解剖学 第2版	高橋和人ほか 著	医歯薬出版	1998年
参	イラストで分かる歯科医学の基礎 第4版	村上秀明、西村康、天野修 監修	末永書店	2021年
教	Ross組織学 原著7版	M. H. Ross, W. Pawlina 著、内山安男、相磯貞和 監訳	南江堂	2019年
教	口腔組織・発生学 第2版	脇田稔、前田健康、山下靖雄、明坂年隆 編	医歯薬出版	2015年
教	カラーアトラス口腔組織発生学 第4版	明坂年隆ほか 著、磯川桂太郎、川崎堅三、柳澤孝彰 編	わかば出版	2016年
参	ネッター 解剖生理学アトラス	J. T. Hansen, B. M. Koepfen著、相磯貞和、渡辺修一 訳	南江堂	2006年
教	基礎歯科生理学 第7版	岩田幸一／井上富雄 船橋誠／加藤隆史 編	医歯薬出版株式会社	2020年
参	生理学テキスト 第9版	大地陸男 著	文光堂	2022年
教	図解よくわかる生化学 第6版	中島邦夫ほか 著	南山堂	2005年
教	口腔生化学 第6版	高橋信博、石崎 明ほか 著	医歯薬出版	2018年
教	Essential細胞生物学 原書第4版	Alberts Bほか 著、中村桂子、松原謙一 監訳	南江堂	2016年
教	スタンダード生化学・口腔生化学 第3版	池尾 隆ほか 編	学建書院	2016年
教	スタンダード歯科理工学：生体材料と歯科材料 7版	中嶋裕ほか 編	学建書院	2022年
教	口腔微生物学・免疫学 第5版	川端重忠ほか 編	医歯薬出版	2021年
教	新口腔病理学 第3版	下野正基、入江太朗ほか 編	医歯薬出版	2021年
教	歯学生のための基礎病理学	高田 隆、入江太朗ほか 編	医歯薬出版	2023年
教	要説 病理学総論	草間薫、入江太朗ほか 編	医学情報社	2020年
教	新編衛生学・公衆衛生学	安井利一ほか 編	医歯薬出版	2021年

教	口腔保健・予防歯科学	安井利一ほか 編	医歯薬出版	2017年
教	スタンダード社会歯科学 第7版	石井拓男ほか 編	学建書院	2021年

### 成績評価方法・基準・配点割合等

<p>【到達度確認試験について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・到達度確認試験はマルチメディア教室PCを用いて実施する。</li> </ul> <p>【後期試験受験資格について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・到達度確認試験およびDESS講義室演習試験を受験すること。</li> <li>・講義に規定数以上出席すること（前期・後期で各評価）。</li> <li>・各DESS演習試験で正答率8割以上得点（8割未満は再試）すること。</li> </ul> <p>原則として以上を満たすことを受験資格とする。</p> <p>【後期試験について】 総合試験形式により実施する。</p> <p>【成績評価について】</p> <p>到達度確認試験①～③、DESS演習試験および後期試験の点数により総合的に評価する。</p>
--

### 特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用等）

<p>アクティブラーニングとして、思考力、推論能力を向上するためにディスカッション方式の講義を行う。また、知識の定着を確実にするため数ユニット毎に、到達度確認試験を実施して、学生は復習を行い知識の定着を図る。</p>
--

### 授業に使用する機械・器具と使用目的 …特記すべき器械・器具等はありません。

使用機器・器具等の名称・規格	台数	使用区分	使用目的